

— 目 次 —

「第1回医療関連ものづくり交流会」開催 …………… 1	一日看護師を体験して …………… 6
産学官連携コーディネータ 菅原 幸雄	甲府南高校 長谷川 悠希
保育園の名称募集中 …………… 2	院内コンサートに参加して …………… 6
医学部総務課長 佐々木 順三	4階西病棟 杉山 夏江
スターバックスに決定!! …………… 3	納涼花火大会に参加して …………… 7
経営企画室長 石原 義久	医学部総務課総務・研究協力G 小野 道子
今回は想定外?の連続でした。	ヴァンフォーレ甲府と小児科病棟との第4回交流会 7
富士山8合目救護所ボランティア …………… 4	小児科 犬飼 岳史
施設・環境部施設企画課補佐 片野 誠一	病院サービスは、常日頃から …………… 8
医師対象の「接遇研修」を終えて …………… 5	病院機能改善検討委員会委員長 佐藤 公
病院機能改善検討委員会委員長 佐藤 公	特別メニューの実施。そして2ヶ月余が経過して …8
院外処方・院内処方判断事例 …………… 5	栄養管理部長 阿佐美 薫
副薬剤部長 鈴木 正彦	

「第1回医療関連ものづくり交流会」開催

産学官連携コーディネータ 菅原 幸雄

去る6月23日、医学部附属病院において、「第1回医療関連ものづくり交流会」が開催され、県内中小企業など60社約90人が参加しました。

医療関連機材は医療現場の声にきめ細かく対応した多品種少量生産が求められるため、中小企業向きの分野と言われており、この交流会では、医療現場におけるニーズ（必要性）と中小企業が持つシーズ（ものづくり技術）を結びつけ、共同で医療関連用品の開発、事業化を目指します。

第1回目の今回は、附属病院の看護師等から5件のテーマが提示され、今後定期的に開催されるテーマ別の分科会において、具体的な検討に入ります。

また、交流会に先立って行われた病院見学会では、約1時間かけて病棟や各種検査室、手術室、物流センターなどを見学し、参加者からは、普段見ることのできない裏方の様子を見ることができた、と好評でした。病院見学会は参加人数を制限したため再度実施希望が多く、9月22日の第2回交流会においても実施することになりました。

会員として登録された企業は現在62社。長野1社、東京3社以外は県内企業で、機械器具製造業、繊維工業が大半を占め、IT業界、医療機器等小売業等からも参加を得ております。



保育園の名称募集中

医学部総務課長 佐々木 順 三

職員のお子様を対象とする保育園の設置については、かねてから職員の皆様より要望が寄せられ、昨年度、病院内に設置したワーキンググループでの検討を経て、今年7月開催の役員会でその設置が認められました。現在（8月1日）、保育園運営の細部について詰めを行っているところです。その保育園の概要は以下のとおりです。

- 1 開所時期 平成19年4月
- 2 所在地 医学部キャンパス北側職員駐車場跡地
- 3 施設概要 鉄骨 平屋建て 床面積200㎡程度
- 4 利用対象者 本学職員（非常勤職員を含む）、大学院生
- 5 利用定員 定員20人
- 6 保育形態 月極保育、一時保育、病後児保育
- 7 保育日及び保育時間
保育日 月曜日から金曜日まで
（祝日等、年末年始は除く。）
保育時間 基本保育 7時～18時（11時間）
延長保育 18時～20時（2時間）
- 8 保育料等 入園料20,000円、
月額基本料39,000円、延長保育料加算（30分）250円、
一時保育料（1時間）800円、病後児保育料加算（30分）200円



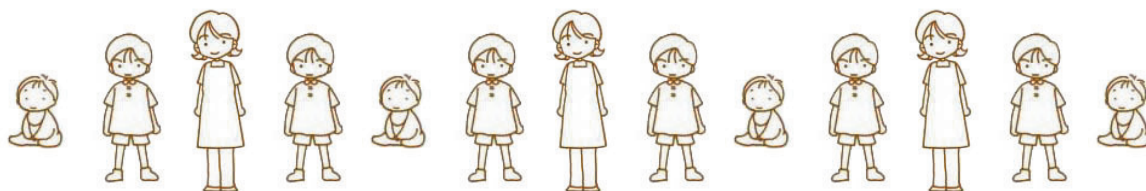
園児の給食は本院同様に直営とし、園児の発達状況やアレルギーの有無などに合わせて食事を提供したいと考えています。

「21世紀を担う子供たちの創造性を育む施設創り」をテーマに、また、施設・環境部では、「環境」を基本方針とした安全・安心、衛生的、機能的な保育施設を設計しています。

昨年実施したアンケート結果では、土日の開所希望が多くありましたが、その分の経費捻出ができず、平日のみの開所でスタートすることとなりました。今後、細部の詰めを行う過程においても、もうひと山、ふた山越えることになるとは思っていますが、皆様が安心して保育園にお子様を預けていただき、仕事に専念していただくこととなるよう努めていきたいと思っております。

冬将軍が訪れる頃、皆様に園児募集のお知らせをしたいと考えています。今しばらくお待ち下さい。

P.S. 保育園の良い名前があれば、総務課の佐々木までご連絡下さい。



illustrated by YUKO YOKOMORI

スターバックスに決定!!

経営企画室長 石原 義久

昨年度から星病院長の提案を受け、附属病院をご利用される患者さん等へのサービス向上と教職員等の労働環境の充実、加えて、附属病院のイメージアップを図るため、附属病院敷地内にコーヒーショップの出店を検討してまいりました。

その後、病院執行部会、病院運営委員会で議論し、本年7月26日開催の第40回本学役員会において審議され、貫井学長の承認を得て、8月7日から24日までコーヒーショップ出店希望業者を公募いたしました。

その結果、公募のありました出店希望業者を8月28日に審査・選考し、このたび、

「スターバックスコーヒージャパン株式会社」

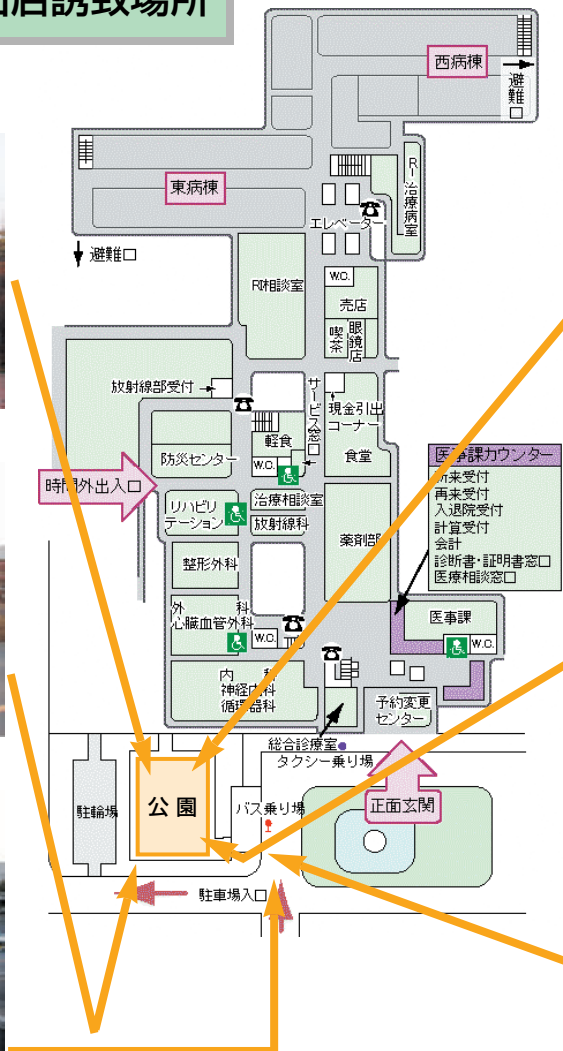
を出店業者として選考いたしました。

現在、早期オープンに向け準備を進めております。
具体的な出店場所は附属病院バス停裏側になります。
(下記図面参照)

また、基本的営業時間は、年中無休、平日朝7時から19時まで、土曜・日曜・祝日等は朝7時から18時までの予定です。



コーヒーショップ出店誘致場所



今回は想定外？の連続でした。富士山8合目救護所ボランティア

施設・環境部施設企画課補佐 片野 誠 一

《想定外その1》

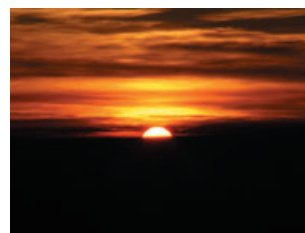
昨年度、台風の影響で1日中太子館に閉じこめられ、帰路には、暴風の影響で道路が削り取られ、ラリーさながらの運転を強いられた経験を踏まえ、気象条件の良い梅雨明け10日を希望日として申し込んだ。が、期待むなしく出発日7月19日（水）は前週からの雨が容赦無く降り続け、昨年への舞にならぬよう願うばかり。私以外のメンバーは、20歳代の卒後臨床研修センターの小林医師、看護部（7東）の深沢看護師、新藤医学科5年生の若手3人組である。親子程の歳の差を感じながらの出発であった。こんなに梅雨明けが遅れるとは、最初の想定外であった。



深沢看護師、片野補佐
新藤医学科生、小林医師

《想定外その2》

雨の3日間を覚悟したが、2日目の朝は、想定外の御来光が拝めた。若手3人組は、患者さんの来ない時間帯の午前中を狙って富士山頂上に向かい、私は、一人留守番で太子館付近を散策。午前11時頃だと思ふ。いつもの、のんびりした登山風景の中、日本人らしき女性がトイレの募金に寄附し、外国人男性と元気良く頂上に向かって行った。まさかその人が2時間後に……。若手3人組は、頂上を制覇し元気良く帰館した。



御来光

《想定外その3》

午後1時頃太子館スタッフから9合目付近で高山病の患者有りの第一報が入った。小林医師の指示のもとスタッフは、酸素ボンベ、心電図計等の万全の準備を終え、患者到着を待っていた。第二報が入った。患者の病状が心肺停止の状態、至急9合目に来てもらいたいとの事。小林医師、新藤医学科生の2人、12ECG、アンビューマスク等緊急物品を持参し、ブルドーザーで現地に向かう。暫くして新藤医学科生が帰館。ショックで言葉が思うように出ず、患者の救命は、難しいとの事。小林医師は、そのまま患者さんと5合目に。5時頃小林医師が帰館。顔がげっそり。疲れ果て疲労困憊の様子。CPR継続のまま5合目に搬送し、救急隊に引き継いだとのこと。これからの長い医師生活でもこのような緊急事態は、めったに遭遇しないのでは。本当にお疲れ様でした。話を聞いているうちに、亡くなった登山者は、午前太子館前で見かけた外国人男性のようだ。21日の山梨日日新聞の朝刊、富士登山中のカナダ人男性死亡の記事。合掌。……。その晩、小林医師らは、相当ショックを受けたようだが、次第に元気回復。医療ボランティアから始まり、小林医師、深沢看護師の体験をもとに、医療全般にわたり、深夜にまで話が盛り上がった。新藤医学科生も熱心に聞きいていた。



富士山頂
(正面が剣が峰)

《想定外その4》

最終日朝から激しい風雨。また昨年のが頭をよぎった。事故のないように十分下山準備をしていると、突然強烈な呼出ブザー。患者さんと思いきや、道を訪ねる登山客。この忙しい時にとっていると……。その横に、体がびしょ濡れで、体をブルブル震わせ倒れる寸前の保育園児が立っていた。かぼそい声で「ストーブ」の一言。見るに見かねてストーブを差し出す。4人で濡れた手袋、靴下を絞って乾かしていると、唇も赤みを増し、元気を取り戻し下山していった。この微笑ましい光景の中に、今後の医療を背負って立つ若手3人組の明るい将来を感じた一幕であった。

《想定外その5》

引継終了後、激しい風雨の中、一路佐藤小屋を目指し下山に向かった。途中休む暇なく、びしょ濡れ、足を前後に動かすのみ。所要時間約1時間、過去6回の中での最短時間だった。この悪条件の中、若手3人組の健脚ぶりも想定外だった。

《想定外のまとめ》

今回は、患者数は少なかったけれど中身の濃い、想定外の連続であった。小林医師、深沢看護師、新藤医学科生にとって、この経験は、何事にも代え難い貴重な体験だったのでは、……。本当にお疲れ様でした。日本一の霊峰富士に、一生に一度、遠路はるばる訪れる登山客に、少しでもお役に立てればと、6年前の初回から参加している。登山客には、「自分自身の体調を十分考慮し、無理のない計画を」と思いつつ、本年のボランティアも無事終了した。富士山ボランティアの関係者、及び参加者の皆様、御苦労さまでした。

※ 御来光及び富士山頂の写真は11班（8月4日～8月6日）が撮影したものです。

医師対象の「接遇研修」を終えて

病院機能改善検討委員会委員長 佐藤 公

6月30日、医学部附属病院の臨床に携わる教授、助教授、講師を対象に「医師接遇研修会」が開催され、約60人の医師が参加しました。

ビジネスブレン代表取締役の永井則子氏を講師として迎え、医療従事者のサービス提供に対する最近の社会情勢の変化、職場におけるリーダーとしての管理ビジョン、患者さんをはじめ初対面の方との挨拶の基本などについて研修を実施しました。

講演内容は多岐にわたり、「相手に不快感を与えない対応の基本」など、新鮮な話題も多かったという講演後の感想がたくさんありました。



講師の永井先生



院外処方・院内処方判断事例

副薬剤部長 鈴木正彦

薬剤師の病棟常駐を開始するための措置として、7月18日より「外来処方は、やむを得ない事情がある場合を除き院外処方とする」こととなりました。1ヶ月が経過し、「やむを得ない事情」に関する判断の基準を明確に示して欲しいとの要望が多くありましたので、院内処方と判断する事例を紹介します。

1. 付き添い者のない全盲者や車椅子使用者が患者さんの場合
2. 院内製剤や治験薬を処方する場合
但し、院内製剤処方でもトーク点鼻、ワーファリン散、リドメックスケラチラミン軟膏、塩酸リモナーデなどは、入力方法の工夫により院外処方が可能です。
3. 院内専用医薬品を処方する場合
4. 検査用薬剤（ニフレック、マグコロール、ユービットなど）を投与する場合
但し、検査用薬剤の院内処方は、検査用薬剤の請求方法が決定するまでの当面の措置とします。検査用薬剤以外は院外処方としてください。

皆様のご協力により、院外処方せん発行率が徐々に上昇しております。心より感謝申し上げます。薬剤部は、さらに臨床に貢献する業務内容に改善していきますので、より一層のご協力をお願いいたします。

一日看護師を体験して

甲府南高校 長谷川 悠 希



病棟で実習中

私が一日看護師に参加した理由はとても単純で、ただ「やってみたいな」という気持ちからでした。でも実際に看護師さんの近くで患者さんと触れ合ったり、看護師さんの働く姿を見たりして、色々なことを感じ、体験して本当によかったと思いました。

実習で私の担当をしてくださった看護師さんはとても優しく可愛い女の子で、患者さんの部屋を回る度に、「今日は高校生の人に来てくれたんですよ。」と私のことを紹介してくれました。看護師さんは忙しいはずなのに、いつも患者さんの前では穏やかで、気配りを忘れていませんでした。

私が体験を通して一番印象に残っている事は、患者さんを励ます看護師さんの姿でした。患者さんの手に看護師さんの両手を添えて優しい声と言葉で「大丈夫だよ。」と言って励ましていました。そんな看護師さんの姿を見て、私は胸が熱くなるのを感じました。どんなに忙しくて疲れていても、患者さんのことを考え、患者さんへの思いやりを忘れない看護師さんを、私は心から尊敬しました。

体験を通して思ったことは、看護師さんの仕事は思っていた以上に大変だということと、看護師さんたちは優しさと強さを兼ね備えているということでした。私もそんな人になりたいと強く思いました。

最後に、忙しい中、私を担当してくださった看護師さんや病院案内などをしてくださった婦長さん、そして病院の皆さんに心から感謝しています。ありがとうございました。



院内コンサートに参加して

4階西病棟 杉 山 夏 江

4階西病棟にハンドベル隊ができたのは今年の12月のことでした。外科病棟のバタバタとした忙しい日々のなか、業務に追われる毎日。電話の音やナースコールにまでイライラしてしまう。最初は、そんなストレスを抱える私たちスタッフのための“心の癒しの場”として結成されました。ただ“楽しむこと”を前提に4階西病棟のスタッフ全員が隊員としてマイペースに活動をしています。中には音楽経験が豊富な人もいれば、ほとんど音符が読めない人もいます。でも、経験に関係なくそれぞれの人が自分の出来ることを活かして一人一人が重要な一員として活動しています。看護師という仕事柄、なかなか全員が集まるというのは難しいのですが、一人ではできないハンドベルだからこそ、合奏の楽しさや喜びがあり、綺麗な和音ができたときにはその音色にとても癒されています。また、仕事と関係なく先輩・後輩の壁を越え、間違えながらも、わいわい楽しみながら、ひとつひとつの音をみんなで作り上げていく時間そのものも私たちにとって「癒し」であり、とても充実したものとなっています。発表も決して完璧ではありませんが「間違えてもいいから大きな音で」と「笑顔」を合言葉に、発表の場を与えてもらったこと、協力してくださった沢山のの人に感謝して、一回一回の舞台を思い切り楽しむようにしています。患者さんに向けての発表は今回が初めてのことでしたが、想像以上にたくさんの人に喜んで頂き、私たちにとっても達成感のある、とても楽しい時間となりました。このような活動の場を与えて頂いたことに感謝しながら、まだまだレパートリーは少ないのですが、今後も“楽しみながら”マイペースに活動していきたいと思えます。



納涼花火大会に参加して

医学部総務課総務・研究協力G 小野道子

7月27日、前日までの梅雨空とは違って変わり、夏本番というような空気の中で、納涼花火大会が行われました。この花火大会、小児科に入院している患者さん達に少しでも楽しい一時を過ごしていただこうと毎年行われているものです。今年も子供達を中心に、明るい内は輪投げやヨーヨー釣り、射的などの簡単なゲームを行い、日が沈みかけた頃から手持ち花火、クライマックスには大掛かりな仕掛け花火を皆で堪能しました。

今年は初めて祭り用の法被が用意されました。参加した子供達は、色とりどりの法被と白手拭いでかわいらしく、大学職員はそろいの赤い法被に白手拭いで威勢よく、お祭り気分を盛り上げました。

普段はお互いに顔を見ることも無い入院患者さん同士やそのご家族、看護師さん等大学職員がとても自然に、気さくに、垣根なく会話が弾む。そんな光景が随所に見られ、こじんまりとしてはいるもののとても温かいお祭りで、皆の笑顔が輝く素敵な時間に私も参加できたことは、よい思い出となりました。

最後に、今年は学生ボランティアの方々にも多数協力していただきました。紙面をお借りして御礼申し上げます。



法被を着た星病院長(右)と島田副病院長(左)



ヨーヨー釣り



輪投げ



手持ち花火



ナイアガラの滝

ヴァンフォーレ甲府と小児科病棟との第4回交流会

小児科 犬飼岳史



茂原選手のリフティング

サッカーJリーグのヴァンフォーレ甲府との交流会が7月11日に行われました。2003年から今年で4回目になります。今年は杉山新、茂原岳人、山崎光太郎の3選手の参加がありました。

病棟内のプレイ・ルームに選手を迎え、選手の自己紹介に続いてゲーム形式で子供達からの質問に答えてもらいました。「お給料はどのくらい？」や「結婚しているの？」など遠慮のない質問には選手も大笑いでした。「入院したことがあるの？」という質問には、3選手ともケガで数回は手術を受けているとのこと、サッカー選手の厳しさを知りました。その後は茂原選手のボール・リフティングの披露に拍手喝采でした。子供達の代表から選手にお礼の言葉とエールを送り、一緒に写真撮影をしたりサインをしてもらった後は、プレイ・ルームに出てこれない子供達を選手が訪室し握手やだっこをしてもらって楽しい時間を過ごしました。J1昇格を果たして社会的にも注目され、例年1・2社だったマスコミ取材が5社に増えてしまい子供達がかなり緊張したのですが、選手のサービス精神にすぐにリラックスすることができました。早速「退院したら応援に行きたい」という声が聞かれました。

病院訪問をしているJリーグのクラブは少ないと聞いていますが、選手からもまた行きたいという声が出ているそうです。昨年の交流会に参加したサポーターの少年達が、再入院したり造血幹細胞移植を受けたりした際には選手からサインボールが届けられ、いずれも元気になって試合を観に行けるようになりました。最後に交流会の今後の発展とヴァンフォーレ甲府の益々の活躍を祈念するとともに、開催にご尽力いただいた関係各所に御礼申し上げます。



サイン会

病院サービスは、常日頃から

病院機能改善検討委員会委員長 佐藤 公

機能評価受審も、遙か昔のように記憶から消え去ろうとしている今日この頃ではないでしょうか。病院サービスについては、常日頃から心がけましょう。

さて、前回出題致しました問題の模擬回答を発表します。

- ① 腕組みなどの（威圧）感を与える姿勢はとらない。
- ② ほほ杖は（不遜）な態度として誤解されやすい。

と、こんな感じになります。

では、今回は、異業種について考えてみましょう。

問題

あるファーストフード店で、一人の女性がハンバーガーを15個注文しました。それに関する店員の対応です。

マニュアルでは「お客様、店内でお召し上がりですか？」となりますが、それでは流石に皮肉ととられますので、実際にはどう対応したでしょうか？

（回答は次号「はなみずき」第42号に掲載いたします。）

特別メニューの実施。そして2ヶ月余が経過して

栄養管理部長 阿佐美 薫



TEAM CELEB

今年の6月から入院患者さんのさらなるQOL（Quality of Life）向上と診療報酬改訂（平成18年度）による食事療養費の減算の対応策として「特別メニュー（この食事に掛かる食材費は患者の自己負担）」を実施しました。この実施計画（案）は、4月の診療報酬改訂が明らかにされるのを待たず、早春の2月の時点には実施に必要な患者給食情報は取り揃え、その結果から「患者のニーズはある」との判断を下していました。また、事（新事業）の成否は、開始からひと月が勝負どころと見込みをつけ、自己負担に値するだけの質の高い食事の提供は言うにおよばず、巷の最適（高）の環境で提供される懐石料理やフランス料理との違いを、横47cm×縦32cmの決して広いとは言えないフィールド（配膳トレイ）

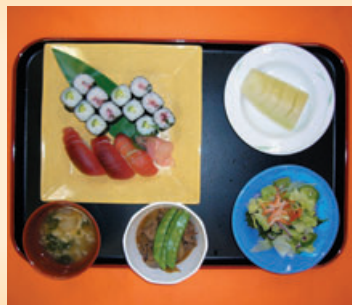
のなかに、どのような手法で患者さんを魅了する食環境や差別化（ブランド）を構築するのか、この企画を成功へ導くために編成したチーム（通称CELEB）は、献立（企画）立案、調理、広報の各担当者らと、「イイモノ作ろう」を合言葉に侃侃諤々の日々を過しています。

2ヶ月余りが過ぎた今日、特別メニューを体験した患者さんから驚きや謝辞の言葉を耳にするようになり、認知されつつあることを実感する機会が増え嬉しい限りですが、その一方で「格差問題」を増長させているような後ろめたいような気持ちが芽生え始めていることも偽らざるところであります。

患者さんが選んだ人気メニューベスト5



1位 ざるうどん（そば）



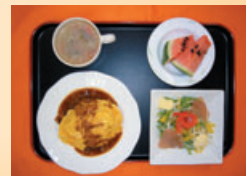
2位 にぎり寿司



3位 サラダうどん



4位 かつ重



5位 オムライス

ご意見、投稿をお待ちしています。（hiroyukik@yamanashi.ac.jp 経営企画室内線2126）